

生活協同組合コープおおいた
役員室広報課

〒870-0728 大分県大分市青崎1丁目9番地35号
TEL.097-524-0119 FAX.097-524-0128
<https://www.oita.coop>

 コープおおいた

コープおおいたレポート

CO-OP OITA REPORT 2019

2019



生協 CO・OP=Co-operativeとは？

よりよい暮らしを願う消費者一人ひとりが
組合員となって参加し、出資・利用・運営する生活協同組合です。
営利を目的とせず事業を行う、組合員の自主的な団体です。

〔 コープおおいたの基本理念 〕

安心 安全 豊かな暮らし

 **コープおおいた**
2020年ビジョン

～暮らしのどこかに生協を～ 暮らしに役立ち、寄りそい、支えあうコープおおいた

私たちのモットーは「ひとりはおみんなのために。みんなはひとりのために。」です。

コープおおいたは組合員の利用で支えられ、成長を続けてきました。

一人では力の弱い消費者も、多くの人々が力を合わせることで、よりよい暮らしを実現できると考えています。

組合員の暮らしや地域社会でうまれた課題の解決に向け、

事業と活動をととしてさまざまな「社会的な取り組み」を推進しています。

人と人の結びつきを大切に、地域の暮らしを支える存在、この街に住んで良かったと思っていただけのような
存在でありたいと願っています。



コープおおいたレポート 2019 編集方針

コープおおいたは事業活動をととして、
みなさまの暮らしと社会をよりよくするために、
CSR活動(企業の社会的責任)に取り組んでいます。
コープおおいたレポート2019では、
コープおおいた2020年ビジョンを指針とし、
「SDGs(持続可能な開発目標)」との関連性
をお伝えしながら、取り組んでいる活動から
主な取り組みを抜粋してご報告いたします。

対象期間:2018年4月～2019年3月

表紙は大分県在住の絵本作家
「ザ・キャビンカンパニー」による、コープおおいたを
イメージしたオリジナル作品です。

持続可能な開発目標

2015年9月、国連で「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球および繁栄のための行動計画として宣言され「持続可能な開発目標(SDGs)」を掲げました。SDGsでは、経済・社会・環境のあらゆる課題は、多分野が連携・協調して統合的に解決していくことが必要不可欠とされています。

誰も取り残さないという「SDGs」のめざすものは、協同組合の理念と重なり合うものです。私たちは助け合いの組織として、持続可能な地域社会の実現をめざし、さまざまな取り組みを進めてきました。今後も、コープおおいたの基本理念とビジョンおよび「SDGs」の実現に向けて、さまざまな行動目標に取り組んでいきます。



Contents

CO・OPとは	P02	暮らしに役立つ取り組み	
事業案内	P04	食・商品の取り組み	P16
トップメッセージ	P05	お買い物弱者支援	P17
特集		暮らしに寄りそう取り組み	
特集.1 役に立つ 「はしもと農園」 「法人配達」	P06 P08	子育て支援	P18
特集.2 寄りそう 「ハートコープおおいた」	P10	高齢者支援と見守り活動	P19
特集.3 支えあう 「災害支援」	P12	社会全体へ貢献する取り組み	
取り組み紹介		平和	P20
地域をつくる取り組み		環境	P21
住み続けられる街づくり	P14	地域社会で活躍する 組合員活動	P22
		未来の地球のために	P24
		コープおおいたと地域の歩み	P26

コープおおいた事業案内

日々の暮らしに役立ち、より豊かにするため、
コープおおいたは各事業が連携し、新たな価値を創り提供しています。



店舗事業

「よりよいものを、より安く」をキーワードとして、毎日の食卓に欠かせないコープ商品や、新鮮で確かな品質の産直商品などを品ぞろえしています。各店舗では、資源回収やマイバッグ運動を推進し、環境に配慮したお店づくりにも取り組んでいます。



宅配事業

生協の代名詞ともいえる宅配事業は、山間部や離島なども含め、大分県全域に、信頼される商品をお届けしています。お子さまや高齢者の見守り活動も担い、ご自宅の玄関先まで商品をお届けする個人配達の利用が増加しています。毎週、約3,000品目の商品から選んでご注文いただけます。



生活サービス

地域の暮らしを支援するため、高齢者福祉施設の運営や、子育て支援、生活支援などを展開しています。また、お買い物弱者支援事業として、移動店舗販売事業のほか、店舗への無料送迎「お買い物サポートカー」も運行しています。

組織概要

組織概要 (2019年3月31日時点)
創 立 / 1952年(昭和27年)12月
代 表 者 / 代表理事 理事長 青木博範
組合員数 / 16万8,279世帯(加入世帯率34.2%)
出 資 金 / 57.83億円
総事業高 / 187.5億円
供 給 高 / 店舗80.88億円 宅配99.66億円
職 員 数 / 225人(正規職員) 584名(定時職員)

本 部 所 在 地 / 大分県大分市青崎1丁目9番地35号
事 業 エ リ ア / 大分県全域
グループ会社 / (有)ヒューマック大分
(株)コープハウジング大分
(株)コープサービスおおいた
(株)コープキッズおおいた
(株)ハートコープおおいた
(株)夢ファームおおいた

グループ会社



各種保険取り扱い、チケット、プレイガイドのほか、ドローン航空学校など



CO・OP自由設計の新築、外壁塗装や住まいの水回りなどの住宅総合リフォーム



コープおおいたの宅配業務受託、弁当宅配、介護食配達、宅配水事業など



保育園や放課後児童クラブなどの児童福祉施設の運営、行政や各団体と連携した子育て支援



菌床しいたけを栽培・販売する就労継続支援A型事業所の運営。障がい者福祉の取り組み



農産物の販売、企業の農業参入、地産地消の取り組み

トップメッセージ

組合員の暮らしに役立ち、 地域とともに発展する 生協をめざして



日頃より、生協の事業やサービスをご利用いただいている組合員のみなさまをはじめ、商品を提供いただいている生産者とお取引先のみなさま、そして生協活動への深いご理解と温かいご支援をいただいている関係者のみなさまに、心より感謝申し上げます。

私たちの生協は、地域が抱えている少子化、高齢化、過疎化などの課題に対して、保育園や放課後児童クラブ等の子育て支援事業をはじめ、高齢者を対象にした福祉介護事業や見守りを兼ねた弁当宅配事業、買い物弱者支援の移動店舗販売事業、障がい者の社会参加を促す就労支援事業を展開してきました。また、東日本大震災以降、県内をはじめ全国各地で発生している災害時における支援活動にも取り組んできました。

これらの取り組みが評価され、コープおおいたは2018年、生協法の施行を機に5年に一度実施される「厚生労働大臣表彰」を受賞することができました。健全な事業運営と活発な組合員活動を展開していること、他の模範となるような顕著な活動を続けていることが表彰の基準となっています。これ

もひとえに、組合員をはじめ、生協を支えていただいているみなさまのご支援の賜物であり、重ねて感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、これまでの活動をより一層広げていきます。

組合員数が16.8万世帯となり、県内の世帯加入率は34%を超えました。3世帯に1世帯が組合員となり、組合員の期待や要望は、地域の期待や要望とも繋がっていると考えています。また、県下最大の消費者組織となったいま、その役割と責任を果たしていくことも求められています。

私たちコープおおいたは、地域社会の一員として、多様化する組合員の暮らしの変化に対応するとともに、地域が抱えるさまざまな課題の解消と笑顔があふれる持続可能な地域社会をめざし、基本理念と2020年ビジョンおよび「持続可能な開発目標(SDGs)」の行動目標に取り組んでいきます。引き続き、みなさまからのご支援をよろしくお願い申し上げます。

生活協同組合コープおおいた
代表理事 理事長 青木博範



はしもと農園



多くの方に喜ばれるパプリカを、
コープと一緒に作っていく。

産直パプリカを生産しているのは臼杵市野津町にある「はしもと農園」。日本ではまだパプリカがめずらしい存在だった20年ほど前に、代表の橋本文博さんが奥様とふたりで栽培をはじめた農園で、その当時からコープおおいたのお付き合



いが続いています。使いやすい小ぶりのサイズをお手頃価格で1個ずつバラ売りにして販売。組合員さんに人気の産直商品です。

標高120m。風通しのよい丘の中腹に位置するはしもと農園では、1ヘクタールの敷地内に立つ30棟のビニールハウスで、赤・黄それぞれ2〜3品種のパプリカが栽培されています。春・秋に苗を植えて半年ずつリレー栽培することで周年栽培を実現しています。はしもと農園の産直パプリカは、福岡県が定める「作物栽培慣行レベル」に対して、農薬使用量を50%以上削減して生産されています。「天敵昆



虫」を使用し、殺虫剤を使わずに害虫の被害を防ぐ取り組みなどによって、農薬の使用をできる限り減らしています。また、ハウス内と出荷準備室では靴の履き替えなどを徹底し、害虫の侵入や異物混入の原因をできる限り排除しています。



農園をはじめた当初は、パプリカの安定した生産量の確保や、パプリカを売る場所、売り場まで運ぶ方法など、さまざまな課題が橋本さんを待ち受けていました。生産量の少ないころは、臼杵市内のコープおおいた職員の自宅へパプリカを持ち込み、その後職員がお店へ直接持ち込んで販売するといった地道な方法も行っていました。農場経営と生産量の確保については、コープおおいたの商品政策室と農産担当の職員とともに試行錯誤を重ね、「コープおおいたが実施する産地点検やGAP(生協版適正農業規範)点検、産直認証をひとつずつクリアしていく

ことで、農園設備やマニュアル、生産のサイクルなどを確立してきました。コープおおいたとともに農園の体制が整い、成長してきました。」と橋本さん。はしもと農園のスタートから約20年が経過し、約10名が常時勤務する雇用の農業経営を実現させました。いまではコープおおいたの全店舗ではしもと農園の産直パプリカが年間をとおして安定供給されています。

組合員さんが農園を訪問する「産地見学」の受け入れや、コープおおいたの店頭での産直生産者交流活動にも取り組んでいます。これらは、「コープおおいたの産直3原則」で定められた項目の一つで、「生産者の顔が見える商品づくり」を徹底してい



TOPICS

コープおおいたの「産直」とは

単なる産地直送ではなく、つくる人と食べる人がしっかりとつながっている「産地直結」です。

産直3原則

- ①生産者・産地が明らかであること
- ②栽培・肥育方法(農薬・肥料・飼料など)が明確であること
- ③生産者と組合員が交流できること

産直マーク

野菜・果物・米については、大分県の定めた「作物栽培慣行レベル基準」に対してどれだけ農薬を削減して生産されているかを★の数でお知らせしています。



農薬を使用せずに生産



農薬を50%以上削減



農薬を30%以上削減



産直3原則を充たして生産



畜産・たまご水産

野菜・果物・米



法人配達



地域活性と多様化する暮らしに役立つ コープおおいたの法人配達。

コープおおいたでは、法人向けに食材や雑貨・消耗品をお届けする「法人配達」を行っています。組合員さんや生産者の方々とともに育てた商品を配達し、働く環境に役立つサービスとして注目されています。

2008年、生協法の改正により、各地域生協にて法人名による利用登録が可能となり、コープおおいたでも法人施設や事業所に向けた商品の供給をスタートしました。

現在、コープおおいたが行政(大分県)より許可されている登録可能施設は、地域の教育施設(学童保育・保育園・幼稚



園・児童館)や社会福祉施設(デイサービス・グループホーム等)となっています。2019年3月現在で、338か所の法人事業所にお届けしており、コープおおいたの宅配事業を通じて県内施設のお役立ちが少しでもできればと考えています。

安心して安全な商品の供給はもちろんのこと、施設までの無料配達など、法人名で登録が可能で、登録の際の出資金は不要です。これまで複数業者に発注していた「食品」「事務用品」「消耗品」などの商品を一括で注文することが可能となり、請求書の処理も1枚にまとまっているため、業務軽減にもつながっています。

また、お届けする法人施設の従業員さんがコープの宅配をご利用されるケースも増えています。職場に商品が届くので、日中ゆっくりとお買い物へ行けない働くお母さんたちによろこばれています。

利用施設の声

かわのこどもクリニック スマイルケアルーム

病児保育ではアレルギー体質の子どもも多いですが、生協のカatalogには全商品にアレルギー表示が記載されているので、確かめながら買うことができます。



坂ノ市校区 児童育成クラブ

児童200名分のおやつを、まとめて配達してくれるので助かります。夏休みには、荷卸しを子どもたちも手伝ったりして、とても賑やかです。

(有)母家介護センター

ラップや石けんもまとめて買えるので、厨房はコープ商品でいっぱいです。同時にいろいろな品目を作るので、時短できる冷凍商品や国産原料を使用した商品が揃って便利で安心できます。毎週、カatalogを見ながら施設の献立を考えています。

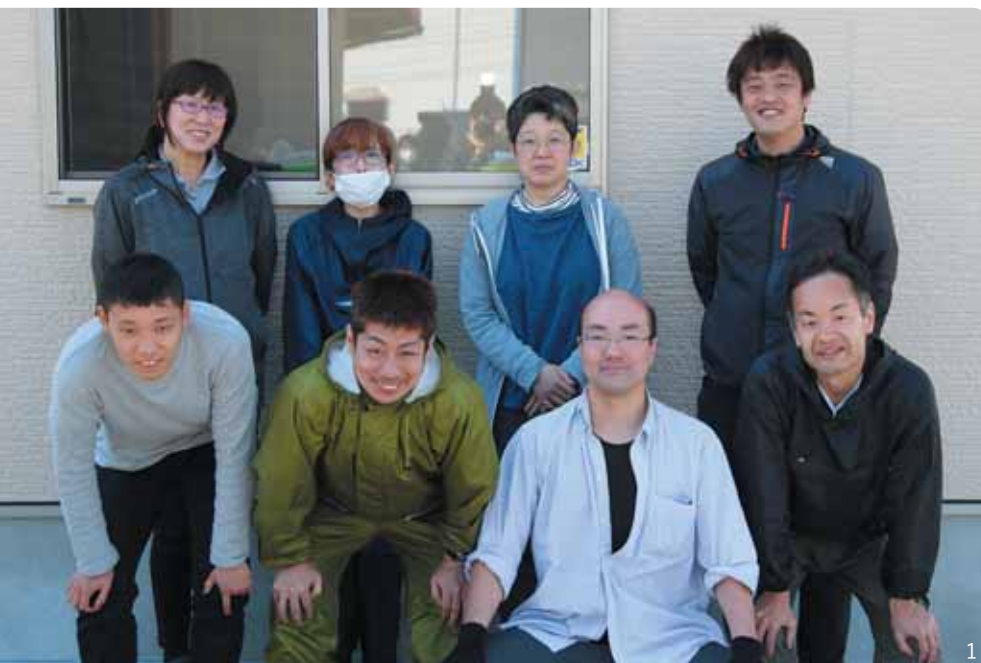


コープ商品を使用したお弁当が利用者へ届けられています。



株式会社

ハートコープおおいた



- 1 (株)ハートコープおおいたの社員のみなさん。
- 2 菌床に水分を含ませる散水作業。
- 3 成長を促進し、形のよいしいたけを作るための芽かき作業。
- 4 椎茸は手作業で収穫しています。
- 5 一つひとつ計量し、パック詰めします。

寄りそい、支えあい、 誰もが活躍できる地域社会に。

障がいのある人の自立をサポートし、社会参加できる環境づくりに貢献したいと、生活協同組合コープおおいたの子会社(株)ハートコープおおいたを設立しました。(株)ハートコープおおいたでは、利用者さんの日常生活と社会生活を総合的にサポートし、一般就労へつなげることを主な事業内容としています。

2019年1月、大分市より就労継続支援A型事業者として指定を受け、青崎事業

所(就労継続支援A型事業所)を開設しました。「障害者総合支援法」に定められた支援事業のひとつであるA型事業所は、障がい福祉サービス費の報酬を受け取りながら運営することで、専門支援員の雇用や訓練設備や環境の充実を図ることが可能となります。

一般就労が困難な障がいを持った方は、知識や能力向上のための職業訓練をA型事業所で行い、一般就労が可能な

利用者さんは、店舗や他法人などで支援機関と連携し就労訓練を行います。コープおおいたの店舗で行う品出し作



ひとつの菌床で、3回収穫をしています。



株式会社

ハートコープおおいた 法人理念・基本理念

「地域で活躍できる 環境の創造」

～よりそい、支えあい、つながる～

障がいを持った方も地域の中で活躍できる環境を創ります。
また、生協らしい個々に寄りそった安心・安全なサービスを実現します。
私たちハートコープおおいたは、一人ひとりの人権・人格を尊重し、
お互いが主体性を持った関係づくりを行ったうえで支援をします。
また、地域や社会との連携を大切にしながら、本人・家族もいきいき
と生活が送れるような環境づくりに取り組みます。

業や、その他事業所および関連会社の事務作業などの委託業務も担うため、全国でも例の少ない複数事業所・業種での作業が可能となり、一般就労により近いカタチでの就労訓練を実現させています。また、すでにコープおおいたで働



休養室で菌を活性化後、菌床に水を吸わせる浸水作業。

いている障がいを持った方々の職業訓練の受け皿の役割も担います。

青崎事業所では、菌床しいたけを栽培しています。事業所内で検品・計量・袋詰めを行い、「生しいたけ ハートコープ菌床育ち」として、コープおおいたの全店舗と宅配カタログの一部で販売しています。一般就労につなげることを目的とする法人理念に基づき、民間企業での就労を想定した働き方をめざしています。「働く楽しさややりがいを感じてもらい、どんどん巣立ってもらえたらうれしい。障がいを持った方の地域社会参加と自立を手助けできる存在となれるよう頑張ります。」と、加藤取締役は力強く語ります。

今後ますます地域に寄りそう生協とし



て、「障がい者福祉」の分野においても地域社会に貢献し、障がいを持った方々に一人ひとりが向き合い、組織としても寄りそう組織風土のあるコープおおいたをめざしています。

TOPICS

就労継続支援A型事業所とは？

一般企業で働くことが困難な障がいのある人に対して、その就労に向けた知識や能力の向上を図り、就労の機会を提供する施設。

- 雇用契約を結び給料をもらいながら利用する
- 利用者は雇用契約に基づきながら一般就労を目指す
- 利用者には最低賃金以上を支給





災害支援



4/17～19 福島復興支援交流訪問

コープおおいたの職員と組合員理事が福島の現状視察と交流のため、毎年福島県を訪問しています。被災地域の復興状況と現状を視察するほか、新地町役場や新地小学校、松川第2仮設住宅を訪問し、自治体や住民の方々の思いや暮らしについて伺っています。



6/19 福島復興支援 交流報告会 (第67回通常総代会後)

生活協同組合コープふくしま 穴戸義広常務理事とふくしま未来農業協同組合 鈴木一三常務理事に福島の現状について報告していただきました。甲状腺検査に関する学習会の開催や、福島県産品に対する風評被害払拭のための土壌調査や放射線検査などの現状を学びました。



コープおおいたの復興支援 「学び、伝える」「交流する」「買い支える」

8/21～23 親子ふくしま訪問ツアー

桃の生産者との交流とJAふくしま未来のモニタリングセンターを見学しました。新地町小学校では、7月の「ふくしまっ子応援プロジェクトⅣ」に参加した児童と再会し、大分での思い出を語り合いました。松川・飯館村仮設住宅では、鶏めしや大分の銘菓を囲んでみなさんと楽しく交流しました。



11/29 ふくしま視察交流報告会

松川第2仮設住宅 管理人 佐藤美喜子さんの講演では、地域コミュニティへ震災・原発事故が及ぼす影響についてお話しいただきました。福島県の現状を伝え、買い支えや交流で支援していく重要性をコープおおいたからお伝えしました。



2018年
4月

6月

7月

8月

11月

2019年
3月

7/22～24 ふくしまっ子応援プロジェクト

2018年で8回目となったこの企画は、原発事故により屋外で遊ぶ機会が減っている福島県の子どもたちに、九州の自然を心ゆくまで楽しんでもらおうと、毎年夏休みに開催しています。2018年は、福島県の児童18名が参加し、2017年九州北部豪雨で被災した日田市小野地区の子どもたちとの交流も行いました。



毎月11日 ふくしまの日

毎月11日を「ふくしまの日」と定め、各店舗の売り上げの1%を寄付金として積み立てています。店頭では、11日にあわせてフェアや試食会などを行い、風評被害の払拭や福島県の現状報告などに取り組んでいます。



2018年北海道胆振東部地震

北海道胆振東部地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

コープおおいたでは災害緊急募金を行い、多くのみなさまにご協力をいただきました。募金は支援金として北海道生活協同組合連合会を通じて被災地へお渡しし、被災地支援活動などに使用していただきました。

募金金額

共同購入・個人配達	5,085,100円
店舗	90,612円
総額	5,175,712円

3/10 福島復興支援イベント「しんけん、ふくしまからはじめよう」

福島県から生産者11名をお招きし、福島県産品を販売しました。福島復興支援活動を、少しでも身近に感じていただき、食材や産地を正しく知り、理解することで風評被害の払拭につながることを願うとともに、震災を次の世代に伝える取り組みです。



平成30年7月豪雨

愛媛県への物資支援に続き、岡山県・広島県へ3名の職員をボランティア派遣し、人的支援を行いました。現地ではサポートセンターの運営や支援拠点での事務支援などを行いました。同時に、店頭での災害緊急募金も行い、日本生協連合会を通じて、被災地へお送りしました。



募金金額

共同購入・個人配達	7,163,800円
店舗	89,866円
総額	7,253,666円

住み続けられる街づくり



「厚生労働大臣表彰」を受賞

コープおおいたの継続した“食とくらし”に関する取り組みや、積極的に地域社会貢献活動を行っていること、行政や地域からの支持があること、災害支援への意欲的な取り組みなどが評価されました。その感謝を各関係者様へお伝えするため「厚生労働大臣表彰感謝の集い」を開催し、大分県知事 広瀬勝貞様をはじめとする、ご関係のみなさまにお集まりいただきました。



日田市と「地域づくりに係る包括連携協定」を締結

コープおおいたはこれまで、日田市の「ひた高齢者見守りあんしんネット」の取り組みに協力し、宅配事業をととして高齢者等の見守り活動を行ってきました。また、平成29年7月九州北部豪雨災害後には、避難所での炊き出しや支援物資の提供、交流イベント参画、店舗での復興支援フェアなどを行ってきました。



別府大学トップマネジメント講座

2017年度に引き続き、2018年度別府大学公開講座「トップマネジメント講話」にて理事長の青木博範が登壇しました。「持続可能な地域社会貢献」と題し、地域に根ざしたお買い物弱者支援や子育て支援などの地域社会貢献事業を継続する重要性などをお話しました。



大分航空ターミナルと「包括連携協定」を締結

この包括連携協定は、大分の空の玄関口である大分空港と県内最大の消費者団体である生協が相互に連携を図り、県内外の人に向けて優れた地域産品を紹介することで、地域活性化の実現を目的としています。

- 協定内容**
- (1) 優れた県産品の普及拡大に関すること
 - (2) 大規模災害時の防災・災害支援活動に関すること
 - (3) 地域産品の普及拡大にあわせ観光資源や特色のあるイベントの紹介に関すること



大分空港にアンテナショップ「ぶんごの空」をオープン

大分航空ターミナルと締結した包括連携協定にもとづき、大分県のアンテナショップとして、コープおおいたのグループ会社(株)コープサービスおおいたが運営する「ぶんごの空」が空港ターミナル内にオープンしました。県内外への大分県産品の普及拡大に努めています。



杵築市向野地区にミニショップをオープン

徒歩圏内にスーパーや商店がなく、お買い物でお困りだった杵築市向野地区に、コープ商品を中心に冷凍食品やその他食品を取りそろえたミニショップをオープンしました。生協・自治体・地域の三者が連携して運営しています。



COLUMN

国民的課題学習会

組合員が国民の一人としてさまざまな問題について考える機会をつくるために、「国民的課題学習会」を実施しています。2018年度は「憲法改定」について学習しました。気軽に会話ができるよう、カフェ形式で開催し、「そもそも憲法って?」「憲法改定するとどうなるの?」など、疑問に思っていることについて学習しました。



食・商品の取り組み



食べ物の大切さを再確認 フードドライブ

店舗のサービスカウンターもしくは宅配の配達担当者とおして、食品などをお寄せいただいています。寄付していただいた食品などは、大分県社会福祉協議会の「フードバンクおおいた」を通じて、こども食堂や福祉施設などに無償で提供されています。

2018年度に組合員さんから集まった食品・雑貨の総量
食品 3,223品(1,606.4kg) 雑貨 398品



「エシカル消費」を応援

「第13回食育推進全国大会inおおいた」にて、エシカル消費の普及を目的に、エシカル消費につながるコープ商品を展示し、来場者にアンケートとクイズを実施しました。ブースには2日間で1,000名を超す来場者があり、多くの方に「エシカル消費」を知っていただける機会となりました。店舗ではエシカル商品コーナーの設置なども行っています。



確かな品質保証

コープおおいたの商品政策室は、コープおおいたのすべてのプライベートブランド商品、産直商品の点検を実施しています。およそ120の点検項目に加え、農産物に関してはGAP(生協版適正農業規範)点検も実施しています。また、産直生産地が毎年見直される産直認証会議においては、独自基準に照らし合わせて生産過程のルールなどを厳格にチェックしています。



COLUMN

コープの商品づくり

「信頼される商品を食卓へ!!」をモットーにしています。私たち消費者が安心して食べられる確かな品質の商品が並び、笑顔あふれる食卓の風景を思い描きながら、「モノではなく命の源である食べ物」という生協の原点を大切に、商品づくりを行っています。

ふだんのくらしを応援する
レギュラー商品



商品のコンセプトや特徴を
わかりやすく表示した商品(抜粋)



子育て世帯を
応援する商品



特定7品目を
使わない商品



コープ商品サイト | <https://goods.jccu.coop/>

お買い物弱者支援



お友だちと、毎週お買い物へ行くよろこび

日常のお買い物にお困りの方や、高齢者を中心としたお買い物弱者支援策として2017年4月に、店舗への無料送迎サービス「お買い物サポートカー」を導入しました。「お買い物サポートカー」とは、ご自宅からお店までが車で片道およそ20分圏内の組合員さんを、専用送迎車両でコープおおいたのお店まで往復送迎し、お買い物を楽しんでいただくサービスです。



くらしの楽しみをコープとともに

「毎週1度のちょっとした小旅行の気持ち」と、嬉しいお声もいただいています。送迎中やお買い物中に交わすお友だちとの会話だけでなく、店舗の職員との交流もとても楽しみにいただいています。さまざまなメニューを提供できるよう、部門担当者は毎週、旬の食材を使った料理提案について情報共有を行っています。



地域と住民をつなぐきっかけに

スーパーや商店の無い地域で、移動店舗販売を行っています。地域コミュニティ再構築の場としても注目されていて、大分県が推進する「孤立ゼロ社会推進プロジェクト」の協力事業者に加盟しています。杵築市では地域包括連携協定にもとづき、他企業・他団体と連携した販売車両も運行しています。



コースごとに変わる品揃え

移動店舗販売車両は、生鮮食品から日用雑貨まで最大700品目を積載します。商品は、出発前に職員(ドライバー)が手作業で積み込み、コースや季節ごとに異なるさまざまなニーズに応じて品揃えしています。利用者と職員のコミュニケーションの中で育まれる信頼関係と、「くらしをよりよいものにしたい」という双方の気持ちを大切にしています。



COLUMN

地域のくらしを支えるために「地域包括連携協定」

2017年、コープおおいたは九州で初めて県と「地域包括連携協定」を締結しました。よりよいくらしの創造はもちろん、地域の安心・安全に貢献することもコープおおいたの使命のひとつと考えています。県下全域を走る宅配トラックを筆頭に、移動店舗販売やお買い物サポートカーにおいても、地域の見守り活動を行っています。



子育て支援



大分県 福祉保健部 こども未来課との意見交換会

コープおおいたは大分県と結ぶ地域包括連携協定に「子育て支援に関すること」が掲げられており、その一環として「大分県 福祉保健部 こども未来課」と子育て行政について子育て中のお母さんたち24名の参加のもと意見交換会を開催しました。子育てと行政サービスについての意見交換が活発に行われました。



認知症キッズサポーター養成講座

小学校5、6年生の児童22名を対象に認知症キッズサポーター養成講座を開催しました。認知症の基礎知識、認知症の種類と症状、認知症と物忘れの違いなどクイズを交えて説明しました。その後、認知症を知ってもらうための紙芝居「私の大好きなおばあちゃん」を読み聞かせしました。講座終了後、オレンジリングを進呈しました。



第5回 コープおおいた子育て講演会

子育てをテーマに学びの場を創出しようと、「子育て講演会」を5年前から開催しています。2018年は「子どもの成長を促す食選力セミナー～食品を選ぶ力を身につければ、子どもの成長とダイエットは両立できる～」をテーマにさまざまな食材の栄養素と体内での働きについて具体例を交えた講演を行いました。



お母さんお父さんの地域参加

子育て中の方も気軽にコープおおいたの企画へ参加できるように、無料の託児支援を行っています。託児を担うのは、生活支援を行うスマイルさぼーと事業のサポーターのみなさんです。家事代行や庭木の剪定、大きな家具の移動などを行う事業で、組合員の「くらしの助け合い活動」を事業化した取り組みです。



高齢者支援と見守り活動



高齢化社会に向けた「生協10の基本ケア」

利用者の尊厳をまもり、自立した在宅生活を支援するための「生協10の基本ケア」を導入しました。利用者ご自身の「ふつうの生活」を取り戻し、利用者・家族のQOL(生活の質)を高めていくことを目的としています。

生協10の基本ケア

1. 換気をする
2. 床に足をつけて座る
3. トイレに座る
4. あたたかい食事をする
5. 家庭浴に入る
6. 座って会話をする
7. 町内にお出かけをする
8. 夢中になれることをする
9. ケア会議をする
10. ターミナルケアをする



高齢者の地域参加

「デイサービスセンターにじいろ」と「にじいろ2号館」では、6年前から行政などと連携し、避難訓練に参加しています。いつ起こるかわからない災害に備えるとともに、地域の方の高齢者の避難介助訓練にもつながっています。

また、地域の保育所や小学校に訪問して、子どもたちと交流しています。



「にじいろ」に込めた、コープおおいたの思い



コープおおいたの高齢者社会福祉施設は、利用されるみなさんの地域参加と自立をサポートし、「やりたいこと、やってみたいことができる」をめざしています。

宅配の特性をいかして地域を見守る

宅配事業と弁当宅配事業「ふれあいコープ便」は、地域の見守り活動に協力しています。商品お届けの際に、組合員や高齢者の異変に配達担当者が気付いた場合、事前に取り決めた行政などの連絡先に連絡・通報を行っています。

2017年より、移動店舗販売事業も大分県孤立ゼロ社会推進プロジェクトの高齢者見守り活動協力事業者に登録し、地域の見守り活動を行っています。



平和



第24回 日田市民生活協同組合・コープおおいた日田センター合同平和のつどい

日田市民生活協同組合とコープおおいたが合同で行う平和のつどいは、2018年で24回目となりました。日田市民文化会館「パトリア日田」の敷地内にある慰霊塔で戦没者へ哀悼の意を込めて参加者で献花を行いました。平和を題材とした児童の作文や戦争体験談をお聞きました。また、大分県立日田三隈高等学校のギター・マンドリン部による演奏会も開催しました。



平和のつどい ～平和の尊さを次世代へ～

平和の尊さを次の世代へつなぐため、毎年開催しています。つどいでは、大分県第7代 高校生平和大使の市原奈奈さんによる活動報告がありました。広島での戦時を描いたアニメ映画『この世界の片隅に』の無料上映会を行いました。上映会後は、10年後の自分へむけた手紙「タイムカプセル未来郵便」を書く催しも行いました。



2018 ピースアクションinナガサキ

「戦争も核兵器もない平和な未来を ～ナガサキ・ヒバクシャの想いを継承し、日本・世界に広げよう～」をテーマとする「2018 ピースアクションinナガサキ」が開催され、コープおおいたの組合員が親子で参加しました。子どもたちが平和について考える企画「2018子ども平和会議inナガサキ」や平和のリレートークイベントが行われました。

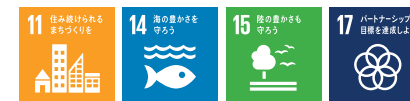


核兵器廃絶国際署名(ヒバクシャ国際署名)

コープおおいたでは、被爆者とともに核兵器禁止条約制定をめざし、ヒバクシャ国際署名に取り組んでいます。集まった署名は、2020年までの毎年の国連総会(10月中旬～11月上旬)に被爆者を中心とした数名の生協代表団を組織して、国連幹部へ署名目録をお渡ししています。



環境



スポGOMI in 大分大会

企業や団体が取り組む従来型のゴミ拾いに、「スポーツ」のエッセンスを加え、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換させた新しいスポーツ企画を開催しました。ハードルが高いと思われるがちな地域社会貢献活動に、気軽に参加していただくことを目的としました。

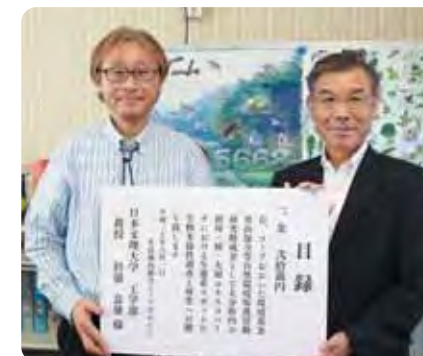


第3回 里山保全等自然環境保護活動研究助成金贈呈

2017年度に引き続き、日本文理大学の杉浦嘉雄教授へ「第3回 里山保全等自然環境保護活動研究助成金」を贈呈しました。2018年度は、杉浦教授の「大分県内の祖母・傾・大崩ユネスコエコパークにおける生態系スポットの生物多様性調査と研究」に助成金を支給させていただきました。

里山保全等自然環境保護活動研究助成金

レジ袋削減の益金を「環境基金」として毎年積み立てています。環境基金委員会で基金の使途について協議を行い、環境に関することへ有効に活用していくことで決定されています。



2018年度 大分県地域環境保全基金寄付金贈呈

コープおおいたと大分県は「レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」を締結しており、毎年大分県に有料レジ袋(1枚5円)で得られた益金の一部を贈呈しています。

贈呈式には、環境基金委員会の井上委員長と組合員理事3名が参加し、大分県生活環境部へ益金11万5,000円をお渡ししました。この益金は大分県の環境保全活動などに活用されます。



幼稚園や保育所などに絵本を贈呈

環境基金助成事業の一環として、県内の児童福祉施設へ絵本を寄贈しています。2018年度は、公立・私立幼稚園には、絵本『ウミガメものがたり』を171冊。公立・私立の保育所などには絵本『もったいないばあさんのいただきます』を295冊、それぞれ寄贈しました。



組合員活動

組合員一人ひとりが主人公。
自主的・自発的な活動をサポートしています。



食(商品)



はじめての食育講座
1〜2歳の子どもたちを対象にした食育講座です。



コープパーティー
商品の試食会や学習会を県内各地で開催しています。

環境



水生生物観察会
「うみたまご」と協力して田んぼや川、海の生き物観察会を開催しています。



環境の紙芝居
環境の取り組みを題材にした紙芝居をイベント会場で読み聞かせています。

子育て



親子de楽しく映画館で読み聞かせ
映画館の大型スクリーンに絵本を映し出して読み聞かせをしています。



はじめてクラブ
子育て層の組合員を中心に、コープ商品の学習会などを行っています。

／ おひとりから参加できるイベントも開催しています ／

コープおおいた イベント

検索



福祉



認知症サポーター養成講座
認知症への理解を深める取り組みです。受講修了者にはオレンジリングを進呈しています。



介護学習会
介護福祉について学ぶ機会を創出しています。

くらし(スポーツ・文化など)



ヨガでリフレッシュ
幅広い世代がチャレンジできるスポーツイベントを開催しています。



にじいろマルシェ
ハンドメイド作家などが集まり、マルシェを開催しています。

防災



消防署見学
家庭の防災学習の一環として、消防署の見学を開催しています。

平和



原爆パネル展示
歴史資料を展示し、平和への願いを再確認する企画を開催しています。

未来の地球のために



地域の中で事業活動を行う組織として、求められる社会的責任を果たしていくうえで、生活協同組合コープおおいたは環境理念と行動規範に沿って行動しています。組合員一人ひとりが環境に関心を持って、身近なエコ活動に参加できる機会を作ります。

資源回収の取り組み

「一人ひとりの一歩は小さいけれど、みんなの力を合わせれば大きくなる」を合言葉に、2018年度も多くの組合員のみなさまに、コープおおいたのさまざまな環境活動にご協力いただきました。

2018年度 回収量の報告

古紙類(牛乳パックとカタログ等)の回収量

約**89万6,326kg**

前年比**101.40%**

回収量の7割がトイレットペーパーやティッシュの実質の原料となります。コアノンロール130m(S)1個276gで換算。約227万3,290ロールが再生されました。

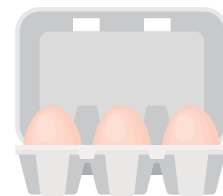


タマゴパックの回収量(共同購入・個配対象)

約**4,849kg** (約**24万2,450**パック)

前年比**142.70%**

1パック約20gとして換算。タマゴパックとして再生されました。中にはリサイクル対象外の素材も含まれていましたが、それらはペレット化され繊維材料となりました。

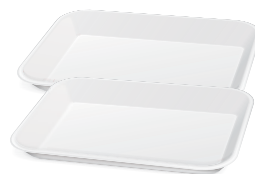


プラスチックトレーの回収量(店舗のみ)

約**2,651kg** (約**53万200**枚)

前年比**108.42%**

重量は1枚平均5gとして換算。トレー1tあたりに原油2,400ℓ(原料+製造するためのエネルギー)が使用されています。



マイバッグ持参数

440万596人

前年比**97.86%**

マイバッグ持参率87.66%。レジ袋1枚に原油10mℓ(原料+製造するためのエネルギー)が使用されています。

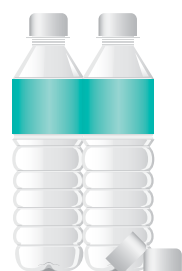


ペットボトルキャップの回収量

約**2,461kg**
(約**98**万個)

前年比**155.66%**

回収したペットボトルキャップは、回収業者を通じてPET原料としてリサイクルされます。



集品袋・カタログセット袋の回収量

約**6,014kg**
(**200万2,662**枚)

前年比**130.03%**

1枚平均3g(333枚/1kg)として換算。リサイクルポリ袋として再生されています。



廃油の回収量(店舗のみ)

約**5万1,000ℓ**

前年比**104.16%**

ドラム缶に換算すると、約255本分に相当。バイオディーゼル燃料として生まれ変わっています。
※コープおおいたでは燃料として使用せず、廃油の回収のみ行っています。



※イラストはイメージです。

地球温暖化防止への取り組み

各事業所におけるエネルギー(電力、ガス、車両燃料など)使用の効率を高めて、供給高1億円あたりのCO₂排出量を定期的に実測把握・検証し、抑制します。

■太陽光発電レポート

地球温暖化を緩やかにする取り組みとして、再生可能エネルギーの発電を行っています。

	2016年度	2017年度	2018年度
コープ南大分	209,907	210,168	211,968
コープ下郡	191,628	195,426	189,999
三重センター	55,538	55,246	55,022
宇佐センター	56,118	57,187	58,851
日出センター	55,897	56,705	57,827
コープ別府店	54,565	56,014	57,569
コープうすき	55,658	56,600	54,996
発電量合計	679,311	687,346	686,232

2018年度の年間発電量合計…… **686,232kWh**

大分県の住宅1戸あたりの年間電力消費量 …… **5,092.8kWh**

大分県の住宅約**125戸**の年間電力消費量に相当する発電量

■2018年度の環境活動まとめ

供給高1億円あたりのCO₂排出量は、2017年度対比0.23%削減されました。削減効果と合わせると、実質排出量として2017年度対比で1.46%削減できました。

エネルギー使用量	単位	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)
電力(九州電力)	4,707,418 kWh	2,180
電力(新電力)	5,103,412 kWh	2,868
ガソリン	169,994 ℓ	394
軽油	262,874 ℓ	678
灯油	8,512 ℓ	21
ガス	21,361 m ³	64
CO ₂ 排出量合計		6,206

エネルギー再生量	単位	CO ₂ 排出削減量(t-CO ₂)
太陽光発電	686,232 kWh	362
リサイクル	左ページ参照	232
CO ₂ 排出削減量合計		594

実質CO ₂ 排出量	5,611
-----------------------	-------

供給高 1億円あたり CO ₂ 排出量	〈2017年度〉 178.86億円 34.45t-CO₂	〈2018年度〉 180.57億円 34.37t-CO₂	供給高1億円あたり 0.08t-CO₂(1.46%) 削減
--------------------------------------	---	---	--

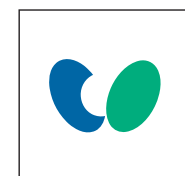
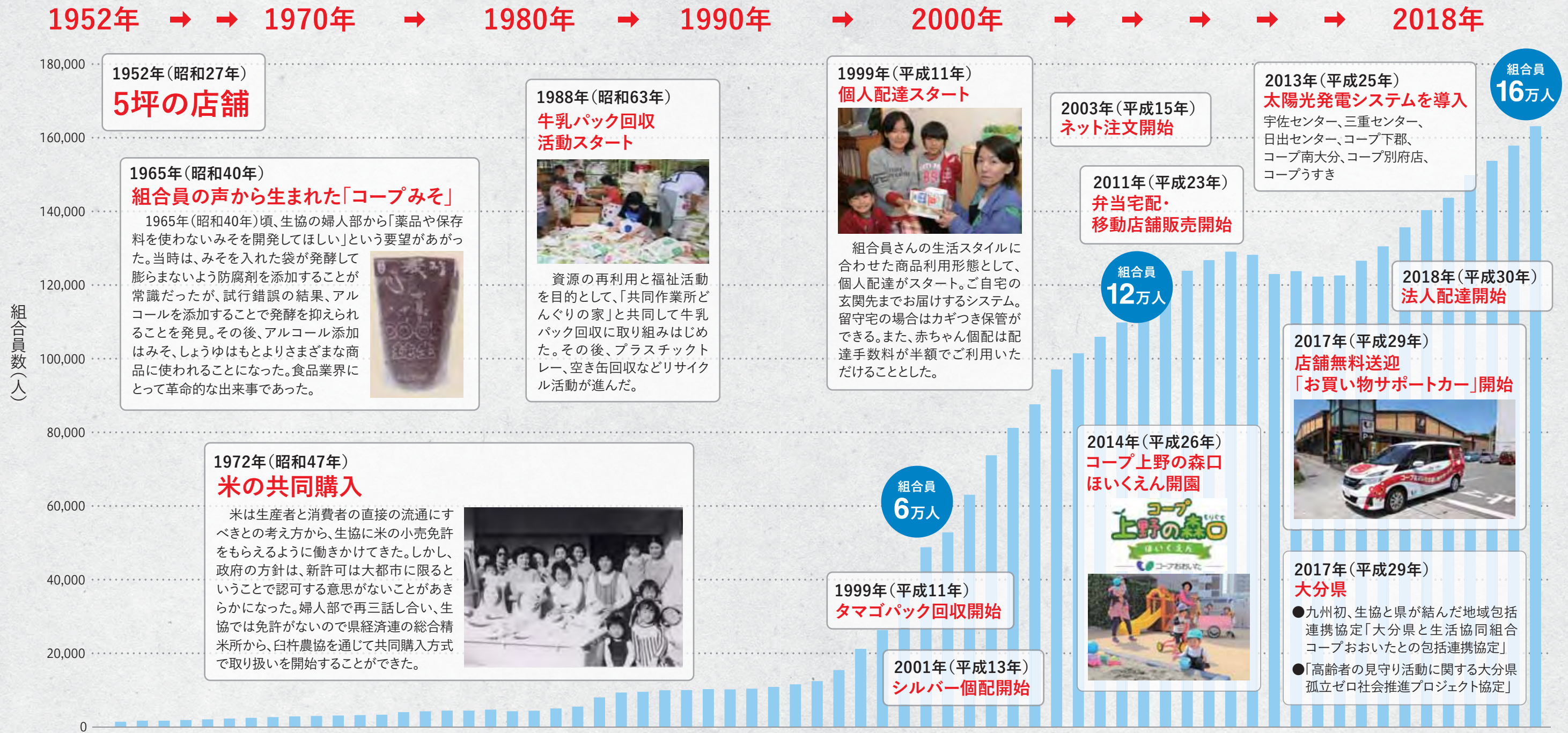
環境活動報告書 2018

コープおおいたのホームページにて、環境活動報告書を情報公開しています。環境マネジメントの取り組みなどについてもご紹介しています。



コープおおいたと地域の歩み

組合員みなさまに支えられ、コープおおいたは創立66年を迎えました。
豊かなくらしの実現のため、地域とともに歩みをすすめてまいります。



コープおおいたのプライベートブランド

コープおおいたのオリジナル商品です。原料や製造方法など、組合員みなさまの意見を取り入れて作られています。



※パッケージは変更になる場合がございます。